

「今、ここ」で、津村俊充先生のことを思い出すということについて

南山大学人文学部心理人間学科 伊 東 留 美

2022年1月20日に昇天された津村俊充先生を思い出し、この文章を書いている。この「思い出す」ことの2つの意義について、南山学園理事長の市瀬英昭神父様がある追悼ミサの中で紹介して下さった。一つは、思い出す相手のことを、「いま『本当にわかる』」ことである。その人の言葉の意味が表面的でなくより深くわかる、「今、本当にわかる」ということだ。もう一つは、相手を思い出し、「必ずしも容易ではないこの日常を力強く、喜んで、生きていく力が与えられる」ということだ。以下に、津村先生のことを思い出しながら、その「思い出す」ということが私に与えてくれたことを書いてみたい。

津村先生のことを思い出し、最初に頭に浮かんだ出来事は、私が南山教会で結婚式を挙げた日（当時の私は南山短期大学に非常勤講師として勤務）のことである。式を終え聖堂を出ると、ギターを抱えた津村先生と数名の学生が外で待ち構え、演奏と歌で私と夫をお祝いして下さった。予告なしのサプライズ演奏で、その場にいた参列者も笑顔で聞いていた。どのような経緯でサプライズを考えて下さったか、今になっては聞くことはできないが、学生と一緒に計画を練って歌を練習する姿が目浮かぶ。多忙な先生と学生の粋な計らいに改めて有難いと感じた。そして、数年前、その時の写真を先生から頂いた。今思えば、先生はそうやって自分のところにあるものを整理し、然るべきところ・人に渡していたのかと思う。そうした心配りがまた私の心に沁みだ。

そして、次に思い出されたことは、津村先生が第33回大会準備委員長を務められた日本人間性心理学会（2014年開催）でのことである。私は大会誌の表紙などを描かせていただいたのだが、その絵を2019年に研究室を引っ越した際に見つけて額ぶちに入れた。2020年だったと記憶しているが、押しつけにならないように（？）先生にもらっていただけないかと尋ねたところ、ご自分にとって記念の大会でもあると返事をいただき、もらっていただいた。その時、先生とメールでやり取りをしたのだが、2020年度保健センター特別修学支援室（現在の大学生活支援室）の主催行事でマインドマップ講座お願いした際のやり取りがきっかけであった。普段なら3時間ほどかける内容を90分でお願いするという無茶ぶりであった。その時に、私が津村先生の時間配分のすばらしさを見習いたいとお伝えしたところ、（いつもうまくいくとは限らないと後付けされたながらも）「いろいろな研修や講座では、最初と最後の時間は大事にしたいと考えています」と返事があった。上手い表現が見つからないが、津村先生の生き方の態度にも重なるのかなと勝手に思った。また、「修行です」ともおっしゃり、この言葉はつらい体験をした時の私を大いに励ましてくれる。

最後に、津村先生を思い出しながら、南山短期大学人間関係科で非常勤講師をさせていた頃を思い出し、多くの先生のお顔が浮かんだ。そこで私は津村先生を始め多くの先生に出会い、「今、ここ」に起きていることにこころを開く態度を教えていただいた。こうした出会いは当たり前ではないこと、そして今を生きる私の糧になっていることに対して改めて感謝したい。